第2回富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会の議事概要

1. 日 時 令和7年2月5日（水）10時から
2. 場 所 富山市役所東館8階 大会議室
3. 出席者 知事、富山市長、滑川市長、黒部市長、上市町長、立山町長、舟橋村長、魚津市副市長
4. 概 要
 - (1) 富山地方鉄道鉄道線の支援に向けた方向性について協議
 - ・燃料や資材高騰に係る支援（約2億円（県と沿線7市町村それぞれ1億円））を実施することを了承
 - ・中長期的な運行のあり方（令和8年度以降の対応を含む）を検討する分科会を設置することを了承
 - ① 本線（上市-宇奈月間）分科会（県、滑川市、魚津市、黒部市、上市町、地鉄）
 - ② 立山線・不二越上滝線分科会（県、富山市、立山町、地鉄）
 - (2) 意見交換（主なもの）
 - ・地鉄の経営状況を考えると、物価高騰支援には応分の負担をする。分科会を設けて中長期的な課題に対して、スピード感を持って対応していかないといけない。
 - ・地鉄本線は、あいの風とやま鉄道の並行区間もあり、滑川から宇奈月温泉間はある意味一番争点になるのかなと思う。
 - ・運行委託の3億円の支援がなければ減便ということだったので、減便やむなしと考えたが、路線の廃止も含めて検討されているということであれば困る。
 - ・岩峯寺－立山間について、地鉄はかなり厳しい経営という思いであっても、住民の利用や観光面を考えると、立山駅までつながってなければ大変なこと。
 - ・本線の分科会の結論が検討会上がってきたときに、富山市と舟橋村が分科会に入っていないとどうなるのか。
 - ・物価高騰支援は負担するが、負担割合はちょっと高い気がする。
 - ・地鉄の鉄道線は何とか存続させていきたいということは一致した意見であるというのが前提だと思う。本線については、まず分科会を立ち上げるが、必要に応じて富山市等も参画する。
 - ・地鉄には、安全性・快適性向上の3億円と合わせた5億円の支援をしっかりと受け止めていただき、より一層の経営努力、効率化、収入確保等に努めていただきたい。